

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：松本保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>[取り組み状況] 法人の理念である礼節・忍耐・誠実を基本に、目指す子どもの姿として、乳児から5才までの年齢別に体系付けられた保育内容を作成している。 また、保育指針の改訂にともない、教育・保育の内容について全体的計画を明確にして編成している。</p> <p>[検討課題] 保育指針の改訂とともに編成された全体的計画が、全職員での更なる理解と共有化が進むことが期待される。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 □ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 □ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>[取り組み状況] 隣接する神社の大木が伸びて日照条件が悪かったり、建て増しや改築により各保育室の環境は変わってきているが、部屋には温度計を設置して温度管理に努めたり、すだれをかけて日除けとしたりと良質な保育環境の維持に努めている。 また、トイレも壁面飾りで明るくするなど、園舎の各所に工夫した努力の跡が視られる。</p> <p>[検討課題] 園の中・長期計画に老朽化対策など、継続的な保育の提供が可能となるような、検討を経た計画が期待される。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>[取り組み状況] 個人記録を作成して子ども一人ひとりの家庭環境を把握しながら支援している。そして、子どもの気持ちに配慮した声掛けが行われている。 また、保育が困難な子どもに対しては行政の巡回指導を積極的に受け入れて、提供する保育の質を高めている。</p> <p>[検討課題] 職員間で声掛けについて、子どもを肯定的にとらえる事は褒めるだけでなく、子どもが認めてくれたと理解できるようにするにはどのような声掛けが効果的なのかなど、共有しておく事も必要であろう。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 <input type="checkbox"/> 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>0～5才までの発達に促した食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、清潔、運動と休息など、年間の保健計画や保育計画に組み込まれており、一人ひとりの発達の状況にあわせた支援が行われている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どもが自分の健康などに関心を持つことで、健康管理や予防が自律するように、各種の生活習慣の習得についてはより習得意欲がわく丁寧な保育が期待される。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<input type="checkbox"/> 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 <input checked="" type="checkbox"/> 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 <input type="checkbox"/> 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>戸外で身体を動かしてドッチボールや縄跳びなどの遊びを多くとり入れている。 また、年齢に応じて徒歩や園バスを使って公園や図書館に行ったり、電車を利用しての各種見学など、様々な体験の機会を提供している。 さらに、老人ホームとの交流、中学生との交流、身近にお世話になっている交番や消防署などへの感謝訪問など、多くの社会体験も取り入れている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>各種の体験から、子ども自身が発見した遊びができて、それが発展していくような保育者の援助や方法などを検証していく機会を設けることで、子どもへの効果も言語化でき、保育者の育ちとともにそのやりがいも増すと理解したい。 また、子どもが見につける社会的ルールをリスト化したりして、どの保育場面で習得支援するのかなど、保育実践での教育的配慮についての更なる充実も必要であろう。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>一人ひとりの子どもを受容して、生活のリズムを大切にしながら、保育士が仲立ちになって遊んでいる。 また、おひるねの時はチェック表を活用して、子どもの健康にも配慮している。 保護者との連絡帳に関しては、子どもの成長を感動・共有しながら援助していることが読み取れる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>0歳児、1歳児には安全を考えてガードを設けてはいるものの、更に環境の工夫を期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>[取り組み状況] 段ボールや牛乳パックの積木などの手作りおもちゃを使って保育士と楽しんだり、散歩などの機会を多く取り入れて歩くことを楽しんでおり、体力作りにも効果を見せている。</p> <p>[検討課題] ハード面の困難さであきらめることなく、ゆったりとくつろげるような家庭的な配慮のある環境作りへの工夫を期待したい。</p>
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>[取り組み状況] 3～5才まで各年齢ごとにテーマを決め、年間計画を立てている。そして、月2回のクラスだよりで子どもの様子を知らせている。 また、月2回の英語・体育・音楽の専任講師の授業、オリジナル教材、せんどのあそびなどを取り入れている。 さらに、年長になると宿泊保育があり、子ども達も楽しみにしており、その効果も成長に表れている。</p> <p>[検討課題] 一人ひとりの子どもに合った、個性を更に伸ばせる保育も期待したい。</p>
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>[取り組み状況] 障害のある子どもの発達状況を知り、支援の必要な子には加配保育士を配置している。 また、検診結果の報告による行政の生育フォローとして、保健師・言語聴覚士・教育委員会の担当チームの巡回相談を活用して、子どもの発達を支えている。 そして、個別指導計画を立案して、園内での研修や共有で子どもを把握している。</p> <p>[検討課題] 身体に障害を持つ子どもに向けた建物の段差や、障害の有無にかかわらず建物のユニバーサル化など、検討課題は多いと感ずる。この事は、子どもだけでなく、親子参観や祖父母参観に来園する大人への配慮とも通じるものであると意識したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況] 子どもがくつろいで過ごせるように未満児は未満児棟で、以上児は一部屋に集って保育し、一人ひとりの名前を確認してから、紙芝居を見たり、どんなことをして遊びたいか子どもの声を聴いて時間を過ごしている。 なお、補食については園はお茶の提供、家からはせんべいの持参の指定をしている。</p> <p>[検討課題] 家庭的でゆっくりと過ごせるようなカーペットスペースは用意されているものの、死角を考慮したコーナーを作ったりの工夫も期待したい。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	<p>[取り組み状況] 幼保小連絡会は主に担当職員が担い、小学校への訪問や教師との研修会で就学までに身に付けておきたいことなどを話し合う機会を設けるなどして保育に活かすなど、交流・連携が活きている。 また、小学校の夏休みの際の教師の保育園訪問や、入学予定児は小学校訪問での1年生との交流会などの機会も設けている。 そして、配慮の必要な子には、園から出向いて報告・連絡会を行ったり、近くの小中学校への感謝訪問で校長との講話を聴く機会もあるなど、子どもの先を見通した保育が行われている。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	<p>[取り組み状況] 毎月の体重・身長測定の実施で、健康と発育・発達状況を定期的・継続的な把握に努め、保育計画の中に0～5歳児の発達段階に応じた、運動と遊び、歩く活動から身体を動かし体力をつける計画を明記している。 また、園独自の保健だよりを月1回発行して、保護者に感染症等の情報発信をして意識付けをするなど、蔓延の防止に努めている。</p> <p>[検討課題] 乳幼児突然死症候群(SIDS)に関するプレスチェックを行っており、職員へのSIDSや窒息のリスク、応急処理に関する知識の充実とともに、園の取り組みを周知するとともに、併せて、保護者の意識も更に高まると思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>年2回の内科検診・歯科検診を行い、結果は記録し、保護者に伝えている。歯科検診で治療が必要な場合は、治療が行われたか、また、その結果も確認している。</p> <p>年中児は歯科栄養教室を開き、毎日、食後には歯磨きを行っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>歯磨きが正しく磨けているかなどの確認を保育士が終了後に確認するなど、各検査結果に異常がみられる子どもに対しては個別計画に盛り込み保護者等と協力して、子ども自身が健康管理を意識できるようにする取り組みが期待される。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 <input type="checkbox"/> 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>アレルギー疾患のある子どもは医師の診断を受け、医師からの指示書に従い、保護者・栄養士・調理師・担任との連携を密にしてアレルギー対応食の提供を行っている。</p> <p>そして、誤食の無いように、調理員・保育士で声だし・指さし確認を行うとともに、全ての職員が緊急対応表の確認や、エビペンの講習会に参加している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>アレルギー対応ガイドライン、アレルギー疾患、慢性疾患等に関する学習会を定期的に開くなど、全保育士が共通の理解を更に深めていくことが期待される。</p> <p>併せて、好奇心旺盛な他の子ども達への統一した説明について、園の規定やその周知による意思統一は必要であろう。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 91 食器の材質や形などに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>5歳児まで年齢別にいろいろな食材を知り、マナーを身に付け、楽しく食事をすることを目標とした食育年間計画が立てられている。園内の畑で育てた野菜を給食で使い、年長の宿泊保育では、その野菜を使って自分たちで調理して食べる経験もしている。</p> <p>また、毎月の家庭への献立表の他、給食職員からの食育だよりも発行・配布され、保護者の関心を深める取り組みもしている。</p> <p>そして、未満児用・以上児用で食器を分けたり、工夫した冬季での主食用の保温で、温かい食事の提供へとつなげている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>当番による食前の献立発表の際は食材の名前やその産地を上げており、調味料を加えたり、地図や季節の野菜表、調味料の効能など、図や写真を掲示しての教育的配慮も期待したいところである。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 □ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況] 一人ひとりの食べる量や好き嫌いを把握して、保育士が食べられる量を配膳し、嫌いな物も少しずつ食べられるように、また、楽しみながら食事ができるよう、声掛けをしながら食事が進んでいる。行事に応じた献立では、入園式、端午の節句、七夕、芋ほり、焼き芋会、クリスマス、もちつき、ひな祭り等がある。 そして、幼児期の保護者には、誕生会等の給食参観で食への関心を高めている。 なお、あやとりの盛んな年長クラスでは握り箸等の子どもを見ることもなく、マナー支援と指先の器用さの向上が効果を出していると理解する。</p> <p>[検討課題] 就学を意識した20分での完食や、それが困難な子どもへの個別計画への落とし込みとその実践など、さらに工夫した関わり方が期待される。また、県内産農産物の消費拡大は県を上げての取り組みであり、調理員だけでなく、全職員、保護者等への園の取り組みを周知するために、食材における割合などの掲示なども期待したいところである。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況] 保護者との信頼関係作りとして、送迎時の会話、連絡帳、個人懇談等で築く様に取り組んでいるが、未満児は毎日の連絡帳で家庭との往信・返信、以上児は保護者からの連絡等に連絡帳を使っている。 園からのおたよりは行事の前後に必要なに応じて行き、学年だよりを月1回以上、クラスだよりを月2回、子どもたちの様子を具体的に知らせている。 保護者からの相談に応じる体制を園の2か所に表示している。それらの相談は、担任から学年主任、主任、園長へと繋がっている。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 □ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 □ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[検討課題] 以上児になると連絡帳での連絡は、毎日というわけにはいかないようで、保護者等への対応に違いがないような更なる注力が期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>虐待等権利侵害の兆候については、毎日の送迎の際の保護者の様子、月1回の身体測定、おむつ交換時、日頃の服装、子どもとの会話等の把握に努め、それが疑われる場合は、主任・園長へと報告をすることとしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>昨今、痛ましい事案も増えており、虐待の芽チェックリストの活用や対応マニュアルの更なる整備を進め、マニュアルに基づく実践研修などで、疑いから行政・児童相談所との通報について、全職員の理解を更に深める取り組みを期待したい。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 <input type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>年間指導計画、月案の項目に自己評価の欄が設けられており、保育の反省の記録としている。 また、保育士は年度末に法人共通の「自己の振り返り表」を使って自己評価を行っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>年度末の保育士の振り返り表や年間指導計画や月案の自己評価など、それらを次のステップへ活用する職員間で共有化を図る取り組みの機会を増やしたり、対話型の園内研修としたりするなど、継続的・組織的に次の保育への改善を図ることで、園全体の保育の質の向上につながると考えたい。</p>